様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：１４３０３
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３３６０２７５

研究課題名（和文）村野藤吾のアンビルト・非公表作品の解明

研究課題名（英文）The study on unbuild and not published architectural works by Togo Murano

研究代表者
松隈　洋（MATSUKUMA, HIROSHI）

京都工芸繊維大学・美術工芸資料館・教授

研究者番号：８０３２４７２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　6,400,000円、（間接経費）　　1,920,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、京都工芸繊維大学が所蔵する村野藤吾の建築設計図・スケッチ類から、設計は完了したが実施にいたらなかった建築作品、あるいは完成したもののその存在が公にされなかった作品について調査・考察を行い、村野藤吾の未知の作品群とその背景を解明するものである。
　調査・考察の結果、多数の未発表およびアンビルト作品について解明することができた。それらは、戦中期の作品やオフィスビル、住宅に多く見られた。戦中期のものは、1937年に日中戦争の影響により鉄鋼規制が始まることに関係していると見られる。またオフィスビルや住宅に非公表作品が多いのは、ビルディングタイプに特有の問題だと思われる。

研究成果の概要（英文）：This is the study about unbuilt and unpublished architectural works of architect Togo Murano using by architectural drawings which Kyoto Institute of Technology has.
As a result, we found that there are a lot of unpublished works of office buildings and houses. Because, we guess, the privacy is very important for residences and office buildings are not so photogenic, so they were not published. These are problem of characteristics by the building type. We also found that there are a lot of unbuilt works in the war period. Because the steel regulation started in 1937 for the world war second, so most of his projectes were not built. This is the problem of characteristics by period.

研究分野：近代建築史・建築設計

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：村野藤吾　アンビルト　非公表　近代　戦中期

１．研究開始当初の背景

村野藤吾に関する論考において、実現作品のヴァリアントについては 1990 年に『村野藤吾建築図面集』が刊行されて以降、分析の対象となっているが、実現せずに図面だけが残るいわゆるアンビルト作品、及び非公表作品に言及したものは少ない。

研究組織のメンバーはすべて「村野藤吾の設計研究会」に参加している。この研究会は、京都工芸繊維大学に寄贈された村野藤吾の図面資料を整理校訂するために、学内の教員と村野作品に関心を持つ学外者とで 1999 年に結成された。

図面整理の過程で、雑誌等に発表されていない作品、そもそも建ったかどうかさえ定かでない作品が、意外なほど多くあることが判ってきた。また、同会では図面校訂の成果を展覧会によってほぼ毎年公開してきたが、2008 年には、実現しなかった作品を取り上げた「アンビルト・ムラノ」展を開いた。このときには集中的に村野作品の実施・不実施を調査し、多くのデータを得たが、それぞれの考察はあくまで作品解題の域にとどまっていた。一方、完成後、未発表のまま推移した作品については、個別の事例についての調査を蓄積しはじめており、一部は 2010 年に刊行した『村野藤吾研究』に成果を発表した。

こうした経緯の中で、アンビルト作品・非公表作品の意義にあらためて注目することとなった。一般にそうした建築物は、実現を果たしてその成果を世に問われた作品にくらべて、価値の低いものと見なされがちである。しかし、われわれの見るところ、アンビルト・非公表作品は単なる未熟児ではない。

なぜなら、村野藤吾の建築活動について新たな知見を与えるからである。村野のアンビルト・非公表作品の多くは 1930 年代後半から 40 年代に集中している。戦中期の建築活動は、村野に限らず未知な部分が非常に多いが、図面資料から判明することは多い。

また、建設事業が中絶する、あるいは作品の公表を見合わせるという一種特殊な状況からは、そうした状況を招いた社会的、都市的背景がうかがえると考えられる。

２．研究の目的

京都工芸繊維大学は 5 万 6000 点に及ぶ村野藤吾の建築設計図・エスキス類を所蔵する。その中には、設計は完了しているが実施にいたらなかった建築作品、あるいは完成したもののその存在が公にされなかった作品が数十件存在する。それらは、実現して広く公表された作品だけで語られてきた村野作品の像とは大きく異なる相貌を見せている。また軍事施設・産業施設ゆえに秘匿されていた戦時期の建築群は、史料がとぼしいこの時期の建築活動の状況について、多くのことを教える。本研究は、これらの様態を把握し、村野藤吾の理解に向けて重要な知見を加えるとともに、日本近代建築の社会的背景に対する新たな照明を与えることを目的とする。

３．研究の方法

以下の 4 種類の研究と作業を進めた。

1. 研究対象作品の選定および整理作業

研究のための基礎資料作成の一環として、対象とする作品を選定し、図面資料の整理・保存作業を行った。作品ごとに分類し、整理カードおよびパソコンでのデータ記入を行い、整理ケースにしまう作業を行なう。また研究対象とする作品を大型スキャナーでデジタルデータ化し、それをもとにデータベースを作成する。これらの作業に必要な機器は、既存のものを用いる。

2. 非公表・不実施作品の由来の解明

まず非公表および不実施作品を同定する作業が必要である。そのために個別に調査を行ない、その履歴や所在を明らかにした。調査方法は図面資料に描かれた情報によって異なる。場合に応じて市史、社史、企業の営業報告書、法務局の土地台帳、地図、絵葉書などを使い分け、時には企業や個人への聞き取りを行なうなどして調査した。

上記の履歴および所在調査と合わせて、その対象作品が非公表・不実施となった歴史的背景の有無を調査した。また、非公表およびアンビルト作品の中には、未知の施主が多数含まれているため、施主についての調査を行った。

3. 予備資料の収集・作成

村野藤吾の非公表作品についての写真を可能な限り収集し、現像したプリントをファイルに整理・保存しスキャナーによりデジタルデータ化して整理・保存した。

また対象とする作品の関係者に対してインタビューを行ない、デジタルデータとして記録・保存する。すでにインタビューを行なったものはデジタルデータ化を行なった。

4. 図面資料分析

図面資料には、作品が最終的に確定するまでに作成された複数の計画案のスケッチや図面が残されている場合がある。それらの資料を時系列に並べることで、設計プロセスや建築家の思考のプロセスの特徴を検討した。

さらに対象とする非公表およびアンビルト作品の建築理念や意匠、技術についての特徴を考察した。設計プロセスの変化を見ながら、意匠や技術の特徴を捉え、その建築理念を考察した。

村野の非公表および不実施作品は、1930 年代後半から 40 年代前半にかけての、いわゆる戦中期に比較的多く見られる。そこで村野が戦時下の条件や問題にどのように対処し、最終的にどのような結末を迎えたかを検証することで、村野の戦中期の活動を明らかにした。

また村野の非公表作品の中には、数多くの住宅作品が含まれる。プライベートなものである故、雑誌や作品集に発表するのが適当でないと判断されたためと思われる。住宅作品

を研究の対象とし、村野の住宅における和風意匠の用い方の特徴や、木造建築に共通する技術的特徴を解明した。

４．研究成果

毎年度、研究を進める中で、研究対象として近年新たに発見された図面資料の中から非公表作品および非公表図面資料を選定し、研究のための基礎資料作成の一環として、選定した作品の図面資料の整理・保存作業を行った。作品ごとに分類し、整理カードおよびパソコンでのデータ記入を行い、整理ケースにしまう作業を行なった。また研究対象とする作品を適宜、大型スキャナーでデジタルデータ化する作業も行った。

こうした作業と別に、非公表作品および非公表図面資料の解明を行った。2011 年度は対象として、加能合同銀行本店（現・北國銀行武蔵ヶ辻支店／1932 年）、キャバレー・アカダマ（1933 年）、都ホテル（現・ウェスティン都ホテル京都／1936 年）、高島屋飯田神戸支店（1936 年）、客船家具（あるぜんちな丸・ぶらじる丸など／1937-42 年）、橿原神宮駅（現・橿原神宮前駅／1939 年）、中山半邸（現存せず／1940 年）、中林邸（1941 年）、牧野山の家（1946 年）などを選んだ。これらは、ほとんどが戦前に設計されたもので、村野の存命中に非公表作品であったか、作品そのものは公表されていても多数の非公表図面資料が含まれている作品である。

非公表作品については、現地調査や文献調査、写真資料調査などを通じて、所在地や施主、設計経緯、建物の特徴などを明らかにした。非公表図面資料については、それらの資料や追加の文献資料などによる考察を通じて、従来知られていなかった設計経緯や建物の特徴などを明らかにした。これらの研究成果は、第 11 回村野藤吾建築設計図展を開催し一般に公開した。

2012 年度は、研究対象としてドウトン（1955 年）、浪花組ビルディング（住実ビル／1964 年）、千里南地区市民センター（1976 年）、村野・森建築事務所（1966 年）、大阪ビルヂング八重洲口（1967 年）、高橋ビル本館（1970 年）、高橋ビル東館（1967 年）、高橋ビル東 3 号館（1969 年）などを選んだ。

非公表作品については、現地調査や文献調査、写真資料調査などを通じて、所在地や施主、設計経緯、建物の特徴などを明らかにした。非公表図面資料については、それらの資料や追加の文献資料などによる考察を通じて、従来知られていなかった設計経緯や建物の特徴などを明らかにした。これらの研究成果は、第 12 回村野藤吾建築設計図展を開催し一般に公開した。

2013 年度は研究対象として、住宅を選定した。住宅は一部の作品を除いて、ほとんどが公表されていない。一方で、これまで住宅作品の施主名は判明しても、それがどのような人物であり、どのような経緯で村野に設計が依頼され、その住宅が実際に建設されたのか、現存するのかなどについては不明な点が多かった。今回は一部に留まったが、解明することができた。対象としては、武智邸（1935 年）、川崎航空機社宅（1939 年）、湯浅邸（1939 年頃）、村野邸（1940 年）、工藤邸（1954 年）、高知県知事公舎（1963 年）、近鉄の学園前および港南台のハウジング・プロジェクトを選定した。それらについては、現地調査や文献調査、写真資料調査などを通じて、所在地や施主、設計経緯、建物の特徴などを明らかにした。これらの研究成果は、『村野藤吾研究』第 3 号で発行し一般に公開した。

以上のように、本研究を通じて、村野藤吾の非公表作品やアンビルト作品について、個別に解明が進んだ。従来、村野藤吾が設計したことが全く知られていないものも多数存在し、大きな成果を得られた。また全体を通じて言えるのは、未発表やアンビルト作品は戦中期の作品やオフィスビル、住宅に多く見られることである。戦中期のものは、1937 年に日中戦争の影響により鉄鋼規制が始まることに関係していると見られる。またオフィスビルや住宅に非公表作品が多いのは、ビルディングタイプに特有の問題だと思われる。オフィスビルは見せ場が少なく、雑誌や作品集で紹介されにくいこと、住宅はプライバシーの問題も大きく雑誌や作品集で紹介するのが難しいことが影響していると考えられる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　35　件）

1. 石田潤一郎「『ハウスドクター』としての村野藤吾」、『村野藤吾研究』、査読無、第 3 号、2014 年、pp.5-8
2. 平井直樹・石田潤一郎「川崎航空機工業岐阜工場の社宅」、『村野藤吾研究』、査読無、第 3 号、2014 年、pp.21-28
3. 本嶋正太・平井直樹・石田潤一郎「村野藤吾の設計による建売住宅」、『村野藤吾研究』、査読無、第 3 号、2014 年、pp.67-86
4. 笠原一人「上野伊三郎と本野精吾－その家具・工芸活動とローカリティ－」、『シンポジウム「近代建築史の最先端」第 9 回 近代（日本）× 近代（西洋）中東欧のモダニズムとその拡がり そのⅡ』、査読無、2014 年、pp.10-16
5. 角田暁治・福原和則・石田潤一郎「立面の検討過程から見る松寿荘の特質－松寿荘における村野藤吾の設計過程に関する研究その２－」、『日本建築学会計画系論文集』、査読有、第 78 巻 692 号、2013 年、pp.2251-2260
6. 山崎泰寛・松隈洋「ニューヨーク近代美術館「日本家屋展」に見るキュレーターの役割」、『日本建築学会計画系論文集』、査読有、第 78 巻 688 号、2013 年、pp.1441-1446
7. 山崎泰寛・松隈洋「ニューヨーク近代美

術館「日本建築展」に見る日米の日本建築観の差異」、『日本建築学会計画系論文集』、査読有、第 78 巻 6917 号、2013 年、pp.1521-1526
8. 平井直樹・石田潤一郎・池上重康「明治後期から昭和初期における職工寄宿舎に関する評価」、『日本建築学会計画系論文集』、査読有、第 78 巻 689 号、2013 年、pp.1621-1630
9. 平井直樹・池上重康・中江研・石田潤一郎「明治後期から昭和初期における職工社宅改善の試み」、『日本建築学会計画系論文集』、査読有、pp.78-692、2013 年、pp.2223-2239
10. 笠原一人「戦前期京都における宮崎家具店と建築家の協働について」、『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系』、査読無、第 53 号、2013 年、pp.801-804
11. 笠原一人「『デザイン』誌にみる村野藤吾の 1930 年欧米旅行」、『日本建築学会大会学術講演梗概集』、査読無、建築歴史・意匠、2013 年、pp.963-964
12. 笠原一人「湯浅邸－戦時下のパトロン湯浅譲とその住宅－」、『村野藤吾研究』、査読無、第 3 号、2013 年、pp.29-44
13. 笠原一人「再読 関西近代建築 ： モダンエイジの建築遺産（51）新大阪駅」、『建築と社会』、査読無、第 94 巻 6 号、2013 年、pp.29-32
14. 笠原一人「神戸市庁舎」、『歴史と神戸』、査読無、第 296 号、2013 年、pp.24-28
15. 笠原一人「カトリック宝塚教会」、『歴史と神戸』、査読無、第 300 号、2013 年、pp.2-6
16. 笠原一人「栗原邸にみる本野精吾のモダニズム」、『建築人』、査読無、2013 年 8 月号、2013 年、pp.4-5
17. 石田潤一郎「『伝道院』の再発見」、『東京人』、第 27 巻第 16 号、査読無、2012 年、pp.76-82
18. 石田潤一郎「関西・名作住宅入門　戦前編」、『チルチンびと』、第 72 号、査読無、2012 年、pp.178-180
19. 角田暁治・福原和則・石田潤一郎「平面の検討過程から見る松寿荘の特質について－松寿荘における村野藤吾の設計過程に関する研究　その１－」、『日本建築学会計画系論文集』、第 77 巻第 679 号、査読有、2012 年、pp.2181-2189
20. Akira KAKUDA「Research on the feature of design of Tohgo Murano in the works of his later years」、『International Conference on East Asian Architectural Culture CONFERENCE ABSTRACTS』、査読有、2012 年、p.28
21. Akira KAKUDA：A Study on the Design Features Characterizing the Later Three Works by Togo Murano, International Conference on East Asian Architectural Culture 2012, Conference Proceedings, Memory Stick, not paged, 14p, p.28(Conference Abstract) (2012).
22. 笠原一人「京都高等工芸学校本館」、『建築と社会』、査読無、第 1081 号、2012 年、pp.21-24
23. 笠原一人「美野丘小学校円形校舎」、『歴史と神戸』、査読無、第 292 号、2012 年、pp.2-6、
24. 笠原一人「関西・名作住宅入門　戦後編」、『チルチンびと』、第 72 号、査読無、2012 年、pp.84-89
25. 笠原一人「尼崎市庁舎」『日事連』、第 195 号、査読無、2012 年、pp.42-43
26. 笠原一人「村野藤吾：批評としての階段-旧千代田生命相互会社本社ビルの階段をめぐって-」、『ディテール』、第 587 号、査読無、2012 年、pp.181-183
28. 松隈洋「京都会館―再読関西近代建築」、『建築と社会』、査読無、第 1079 号、2012 年、pp.31-34
27. 松隈洋「建築文化の根底が揺らいでいる―近代建築の保存問題が問いかけるもの」、『建築とまちづくり』、査読無、第 397 号、2011 年、pp.6-11
29. 石田潤一郎「村野藤吾における建築経済学的思考」、『村野藤吾研究』、査読無、第 2 号、2011 年、pp.39-55
30. 平井直樹・石田潤一郎「戦前期村野藤吾作品に関する基礎的研究－雑誌掲載作の解明を中心に－」、『村野藤吾研究』、査読無、第 2 号、2011 年、pp.69-79
31. 平井直樹・石田潤一郎・笠原一人「村野藤吾設計による『海軍将校倶楽部』の建設・移築経緯」、『日本建築学会近畿支部研究報告集』、査読無、第 51 号・計画系、　2011 年、pp.889-892
32. 角田暁治・福原和則・竹内次男「西山記念会館における村野藤吾の設計過程に関する研究」、『村野藤吾研究』、査読無、第 2 号、2011 年、pp.7-15
33. 角田暁治「西山記念会館における村野藤吾の設計過程に関する研究　補論」、『村野藤吾研究』、査読無、第 2 号、2011 年、pp.17-19
34. 笠原一人「兵庫の戦後モダニズム建築第 10 回　豊岡市民会館」、『歴史と神戸』、査読無、第 285 号、2011 年、pp.40-45
35. 笠原一人「兵庫の戦後モダニズム建築第 11 回　西山記念会館」、『歴史と神戸』、査読無、第 288 号、2011 年、pp.2-6

〔学会発表〕（計　10　件）
1. 笠原一人「上野伊三郎と本野精吾－その家具・工芸活動とローカリティ－」、日本建築学会、2014年2月1日、建築会館
2. 笠原一人「村野藤吾の甲南女子大学キャンパスを読み解く」、兵庫県建築士会、2014年1月11日、甲南女子大学
3. 笠原一人「『デザイン』誌にみる村野藤吾の1930年欧米旅行」、日本建築学会、2013年9月1日、北海道大学
4. 笠原一人「戦前期京都における宮崎家具店と建築家の協働について」、日本建築学会近畿支部、2013年6月16日、大阪工業技術専門学校
5. Akira KAKUDA, “Research on the feature of design of Tohgo Murano in the works of

his later years”, 2012 International Conference on East Asian Architectural Culture, Dec. 11 2012, Hong Kong
6. 松隈　洋「合意形成のプロセス－近年の保存運動から－」、日本建築学会、2012年09月14日～2012年09月14日、名古屋大学
7. 笠原一人「保存をめぐる評価指標の多様化－オランダにおけるゾンネストラール・サナトリウムの修復とソンスベーク・パビリオンの再建から考える－」、日本建築学会、2012年09月14日～2012年09月14日、名古屋大学
8. 笠原一人「南地区センタービルの設計において村野藤吾が目指したもの」、日本建築学会近畿支部、2011 年 9 月 19 日、千里市民センター
9. 松隈洋「木造モダニズムと日土小学校の価値」、日本建築学会四国支部　　、2011 年 8 月 7 日、日土小学校（愛媛県）
10. 松隈洋「地域資源としての近代建築と坂倉準三の仕事」、日本建築学会東海支部、2011 年 6 月 11 日、岐阜市民会館

〔図書〕（計　13　件）
1. 蓑原　敬・松隈　洋・中島直人『建築家大高正人の仕事』、エックスナレッジ、2014 年、p.327
2. 松隈　洋ほか『新国立競技場、何が問題か』、平凡社、2014 年、p.198
3. 松隈　洋・石田潤一郎・角田暁治・笠原一人ほか『第 12 回村野藤吾建築設計図展－都市を形づくる村野藤吾のファサードデザイン－』、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、2013 年、p.176
4. 松隈　洋、石田潤一郎、角田暁治、笠原一人ほか『村野藤吾のファサードデザイン』、国書刊行会、2013 年、p.176
5. 松隈　洋『残すべき建築－モダニズム建築は何を求めたのか－』、誠文堂新光社、2013 年、p.287
6. 松隈　洋ほか『丹下健三　伝統と創造—瀬戸内から世界へ』、美術出版社、2013 年、p.379
7. 松隈　洋ほか『美術館と建築』、青幻舎、2013 年、p.167
8. 池田武邦・松隈　洋『建築家の畏敬　近代技術文明を問う』、建築ジャーナル、2013 年、p.135
9. 大国正美・笠原一人ほか『神戸市謎解き散歩』、KADOKAWA／中経出版、2013 年、p.287
10. 松隈洋・石田潤一郎・角田暁治・笠原一人ほか、『第 11 回村野藤吾建築設計図展－新出資料に見る村野藤吾の世界－』、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、2012 年、p.174
11. 石田潤一郎・五十嵐太郎・久保田稔男・佐久間雄基・米山勇・脇坂圭一『近代建築100の知識』、彰国社、2012年、p.223
12. 松隈　洋ほか『シャルロット・ペリアンと日本』、鹿島出版会、2011 年、p.327
13. 笠原一人監修『復刻版　現代建築』、国書刊行会、2011 年、p.1004

６．研究組織
(1)研究代表者
松隈　洋（MATSUKUMA　HIROSHI）
京都工芸繊維大学・美術工芸資料館・教授
研究者番号：80324721

(2)研究分担者
石田　潤一郎（ISHIDA　JUNICHIRO）
京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・教授
研究者番号：80151372

角田　暁治（KAKUDA　AKIRA）
京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・准教授
研究者番号：60379063

笠原　一人（KASAHARA　KAZUTO）
京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・助教
研究者番号：80303931